

団体名		公益財団法人 武蔵野文化事業団						
①	指標名	市民満足度（公演事業での来場者アンケートで5段階評価で平均4以上の評価となった事業の割合）			目標値	100.0%	実績値	100.0%
	過去の実績	平成28年度	平成29年度	平成30年度	達成率	100.0%	達成状況	達成
	(単位: %)		-	-	100.0			
	取組内容	※R元年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。 ①初めて「中期計画」を策定し、今後の事業の方向性を明確にした。 ②「文化に関する市民アンケート調査」で要望が多かった親子向け事業として、「吉祥寺ファミリーシアター」「アルテ親子まつり」などの事業を充実させ、新たな来館層を開拓した。「松竹大歌舞伎」「NHK短歌俳句大会」など、新たな事業も開催した。 ③完売が80%以上という高いチケット完売率を維持できる公演の提供を行った。 ④11本の独自招聘を行うなど、オリジナリティの高い事業を継続した。 ⑤「昼間のお気軽コンサート」を開始し、敷居の高さを感じる層へのアプローチも含め、来場者が利用しやすい環境作りにも努めた。 ⑥モニタリング調査における総合満足度が向上した施設もあり、事業団の取組み全体として高評価を維持した。 ⑦来場者アンケートについて、アンケートの項目を事業内容によって変えていくなど、アンケートの精度を高める手法を検討した。						
	一次評価	※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。 ○90公演についてアンケートを実施し、すべての公演について、平均4以上の評価となった（最低4.0、最高5.0）。令和元年度の新たな試みである「松竹大歌舞伎」「オーケストラ・ファミリー・コンサート」「エルマーの冒険」などにおいても、4.8を超える高い評価を得るなど、ファミリー向け事業等にも一定の評価を得ている。公演時のアンケートという特性から、多くの回答が得られない事例もあることや、コロナ禍により直接のアンケート用紙のやり取りが困難になっていることから、利用者意見の把握については手法等を含めて改めて考えていきたい。						
	二次評価	アンケートの要望から親子向け事業を開催し新たな来館者の獲得に努めたことや、「松竹大歌舞伎」「オーケストラ・ファミリー・コンサート」「エルマーの冒険」など新たに実施した事業についても、高い満足度を得ていることは非常に評価できる。利用者意見の把握については、新型コロナウイルス感染拡大を踏まえ、新たな手法も検討いただきたい。						
②	指標名	事業収益（入場料収益、その他事業収益、物品販売収益）			目標値	180,554千円	実績値	153,858千円
	過去の実績	平成28年度	平成29年度	平成30年度	達成率	85.2%	達成状況	未達成
	(単位: 千円)		78,330 (市民文化会館休館)	136,282 (市民文化会館休館、088千円を除く)	192,047			
	取組内容	※R元年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。 ①公演ごとにチケット価格設定について検討を行い、適正化を図った。ミュージアムショップについては、企画展や民間事業者とも連携しながら商品の提供を行った。 ②新たな指定管理期間の初年度である令和2年度に向け、舞台業務委託などについて、複数業者による競争による契約の準備に取り組んだ。 ③親子向け事業などについてアクセスしやすい料金を設定するため、他事業の収益も活用しつつ、全体での最適化を図った。 ④吉祥寺シアターのカフェをリニューアルオープンし、公演事業との連携などを通じて、多様な層へのアプローチを行った。また、むさしのFMでの情報提供の内容を見直し、公演情報に限らず、文化事業団が取り組んでいるプログラムの紹介を行った。						
	一次評価	※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。 ○目標値との比較において、入場料収入はマイナス297万円、物品販売はプラス144万円、その他事業収益として、独自招聘したアーティストの他団体への紹介など付帯サービス事業はマイナス154万円となった。新型コロナウイルス感染症による施設の閉館・公演の中止などが影響している。今後とも、公演の質を高め、それに見合った収益を得られるように、職員の企画力の維持・向上等も課題である。加えて、公演事業の収支については、新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、「新しい生活様式」に対応した事業における収入確保の方策を早急に検討する必要がある。						
	二次評価	文化事業団の実施する事業の多くは、新型コロナウイルス感染症の影響が大きいものであるため、「新しい生活様式」に対応した事業について検討し、安定的な収入確保に努めていただきたい。また、それに伴い職員に求められる企画力や運営能力についても多様化していくことが予想されるため、他自治体や民間事業者の取組みを含め、情報収集を行いながら能力の維持向上に努めていただきたい。						
③	指標名	会計管理体制・ガバナンスの強化（会計・財務・法人管理に関わる外部研修の実参加者数）			目標値	8名	実績値	11名
	過去の実績	平成28年度	平成29年度	平成30年度	達成率	137.5%	達成状況	達成
	(単位: 名)		-	-	5			
	取組内容	※R元年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。 ①主に経理を担う職員として、職員採用（内部登用）及び嘱託職員の無期雇用への転換を行った。経理や法人運営に関する研修にも積極的に参加し理解を深めた。また、全職員を対象とした全体研修を初めて行い、法人理解・事業理解を深めることにより、全職員の業務に対するモチベーション向上を図った。 ②会計システムを公益法人会計に特化したシステムへ転換した。 ③理事会に機構改革を提案し、実務に応じた組織体制の整備を行うとともに、総務部門の明確化を図った。						
	一次評価	※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。 ○法人運営の根幹である経理事務について、会計システムを転換したことで公益法人会計上の処理がシステムと連動し、帳票作成等の事務が効率的に行えるようになった。また、研修により職員の理解が深まったことから、スムーズな決算処理につながった。また、システム転換に合わせて会計事務所を変更したことで、当該会計システムに精通した公認会計士による明確な指示を受けることが可能となった。人事制度・組織体制の見直しことや研修の充実により、職員の意欲向上・組織の活性化につながった。						
	二次評価	安定的な法人運営に必要な経理事務について、会計システムの転換による帳票作成等の事務効率化や、外部研修へ積極的に参加したことを評価する。研修に参加した職員の知識やノウハウについて、組織として蓄積できる仕組みを引き続き検討いただきたい。また、人事制度・組織体制の見直しによる職員の意欲向上や組織の活性化については、どのような変化があったか丁寧な評価を行っていただきたい。						